

広島創生イノベーションスクール

第5回全体スクール 授業記録

平成28年9月17日,18日 in 江田島

チームB feel

広島県立
広島国泰寺高等学校



広島県立
三次高等学校



広島県立安古市高等学校



広島県立吉田高等学校



広島大学附属高等学校



広島県立広島観音高等学校



広島市立広島工業高等学校



チームA KFS's

事務局スタッフ



NPO・ 大学生 メンター



広島県立広島高等学校



チームC KKS homes

広島県立西条農業高等学校



広島県立
呉三津田高等学校



広島県立尾道北高等学校

チームD レ点



広島県立
福山明王台高等学校



尾道学園尾道高等学校



講師の方々



大学生等
スタッフ



なぜ、本プロジェクトに参加しているのか？ ～未来の「ありたい姿」について～

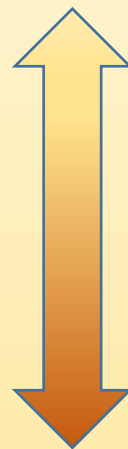


ファシリテーター:長谷川 勇紀(はっせさん)カタリ場事業部シニアマネージャー
アシスタント:水上 亜利紗(ジョーダン)カタリ場事業部アシスタントマネージャー

プログラム内容

内容	ねらい
1 アイスブレイク	体を動かし、緊張感を解き、対話する準備をする。
2 4人1組で自己紹介	班内で仲良くなり、なんでも話せるようにする。
3 先輩の話①	先輩の話から、自分との接点を見つける(感想を書く)
4 人生グラフの記入	自分の人生の転機や、その時大切にしていたことを振り返る。
5 先輩の話② / 人生グラフを深める	各班2グループに分かれる。 A:2人目の先輩の話聞く⇒人生グラフを深める B:先輩と話ながら人生グラフを深める⇒2人目の先輩の話
6 人生グラフの発表	自分のこれまでを振り返る。自分の気持ちや考えを発信する。
7 まとめワークシートの記入	振り返った自分の人生をよりよくしていくためには何をすべきか考える。
8 約束カードの記入	1年後のありたい姿を想像し、具体的な一歩を決める。

過去



未来



生徒たちは、自分の人生と先輩の人生を重ねながら、じっくりと先輩の話を聞き、自らのストーリーを語り始めました。カタリ場で大事にしているのは、「ナナメの関係」少し年上の先輩が、高校生より一歩前を歩きながらも、その人生を振り返ります。高校生にとってはまさに一歩先の人生をイメージできる場となります。

ゆうと

やればできちゃう高校時代。「普通じゃない」人に憧れて留学に、AO入試にいろんなことにチャレンジ。それでも自分のやりたいこと、夢中になることを探し続けた僕の物語。



広島創生イノベーションスクールに参加していること自体、すごいチャンスをつかんでいるってことなんだよ！僕は大学2年生で、自分でNPOを立ち上げたんだ。「青春基地」って言って、中高生が自分のやりたいことをやってみることを応援しているよ。

あゆ

親や先生の期待に応えたくて勉強も部活も一生懸命に頑張っていた高校時代。でも、うまくいかなかった。そんな自分に自信がなくて、自分のことが嫌いだった私が見つけた大切なことは？

なんでも頑張ってきたけど、あるとき「あゆはあゆのままでいいんだよ。」って言うってくれる人と出会えたんだ。涙がとまらなかったよ。ありのままの自分を受け止めてやるのがとても大事だって気づけたよ。



もりお

勉強も部活も人間関係も一生けん命頑張ったけど上手いかなかった高校時代。次第に何をやっても自分が思うようにはならないんじゃないかと疑うように。そんな自分が、もう1回頑張ってみようかなって思えた話。



上手いこないことだらけだった。しんどかったよ。逃げたかった。でも「逃げんじゃねーよ。」って自分に叫ぶことができたんだ。それからは、何事もくらいついてあきらめない自分でいようとしているよ！

(生徒感想)

私はこれまで、自分の進路や将来のことが全然見えてこなくて、「適当なところに就職してお金稼げればいっか」なんて思っていました。

でも、カタリバさんのワークショップの際にお話を聞いて「自分のやりたいこと、好きなことってなんだろう」「私はそのために何をしたことがあるだろう」と改めて考えることができました。

まだまだ先は不透明なままですが、イノベーションスクールで活動しながら、自分のやりたいことを見つけていきたいと思います。

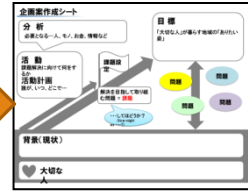


ねらい

グローバルスクールの学びを振り返り、共有し、今後の活動について考える

【Partnership for Youth研修】

噂の「マンダラ」とは何か？



真ん中を「ありたい姿」として、外へ向かって「ありたい姿→どんな具体的な成果が必要なのか→そのためにどんな目標をもつのか→そのためには、どんな戦略が必要なのか→そのためにはどんな行動が必要なのか→そのためにはどのような内容(学び)が必要なのか」を考えていく。それを「マンダラ」というものを使ってイメージ化していく。このフレームワークは実はこのスクールでも実践してきた「企画案作成シート」と同じであったということに、気づいていた人はいましたか？

プログラムの構成について

「インプット→フィールドワーク→アウトプット(多国籍グループでの学び)→アウトプット(多国籍グループでの学びを自分たちのコミュニティーへどう生かすか)」多国籍グループでの学びをどう自分たちの学びへ生かすことができましたか？最初は英語を聞き取ることが難しく、苦勞していましたが、文化交流等を通して、笑顔を取り戻していきました。

【Cebu研修報告】

尾道北高校の旗手さんがセブ研修を報告してくれました。

ハワイの研修に引き続き、行われた研修。一番に印象に残ったのは、「貧富の差」でした。ごみ箱をあさる子供ストリートチルドレンを多く見ました。しかしフィリピンで出会った学校の友達はずっと「笑顔」です。「幸せ」とは何か、深く考えさせられました。また私にできることはないか、改めて考えるいい機会となりました。

私が今回のセブ留学プログラムに参加して「広島創生イノベーションスクールで身に付けたい8つの資質・能力」のうち伸びたと思うものは、「世の中の諸問題について理解し、取り組むべき課題を設定する力」です。セブで問題になっている貧富の差を、なぜそうなったのか、いつからそうなのかなどいろいろな視点から見つめ、ボランティアなど解決方法を考えました。ボランティアといっても、ただ資金や食べ物、衣服をあげるのではなく、どうしたらよい職に就けるか、給料をのばせるか、食物がたくさん取れるか、などの教育を行い、それをみんなに伝えていく必要があると考えました。(セブ研修報告書より抜粋)

【まとめ】

「私にとって、グローバルスクールとは〇〇な場であった。」

生徒の皆さんの振り返りとして、ワークショップの最後に、〇〇に当てはまることばを考えてもらいました。一番多かったのは、「成長」でした。2番目は、「発見」でした。ことばは違っても、なぜそう思うのか理由を読んでいると、文化の違いに気付き、それを楽しみ、英語の恐怖に怯えながらも、なんとか乗り越えていった自分を見つめた人が多かったです。ある人はそれを「チャンス」と表現していました。経験が「人」を変えていく。

この経験がみなさんのこれからの未来へ大きな影響を与えていることを期待しています！

そしてグローバルスクールでの悔しい思いをバネに、みんなでグローバルスクールへ向けて走り出しましょう！

グローバルスクールから グローバルスクールへ

イメージの
共有化

自分の考えを
磨き続ける

今後の活動へ
の取組み方

◆イメージの共有化

プロジェクトをするときはメッセージを持たないといけない。

**メッセージ = 伝えたい事
ストーリーをみんなで作る**

○世の中に影響力を与える「メッセージ」とは？

(例) セヴァン・スズキ世界を6分間黙らせたメッセージ (= 訴え)

ペイ・フォワード (恩送り)

一人が三人に、その一人がまた三人に伝えれば、世界は変わる。

◆自分の考えを磨き続ける

○グローバルスクールで自分たちが発言できなかったのは言語の壁だけが理由だろうか？

「自分の考え」はもっていたか？

「自分の考え」を伝えられたか？ 伝えられず悔しい思いをしたのでは？

自分の考えを磨くことが大切

まずは問い方から変えていこう

「何をすればいい？」



「○○しようと思うのだけど、どうだろう？」



「自分の考え」を磨き上げ続けるために大切なことはなんだろう？

Question1

- <活動> 「ハワイの環境保護と開発」についてスペシャルゲストの話聞いた後、グループ内で「自分の考え」を話し合おう
- <目的> グループでの対話を通じ「自分の考え」を磨く

ゲスト1の訴え：開発やめて！環境保護！
 ゲスト2の訴え：ハワイの環境問題を考えると、客観的なデータから見ても開発は必要では？



持続可能な開発

相反するふたつの意見…あなたはどうか考える？

Question2

- <活動> 判断が難しい決断を迫られる「トロッコ問題」。最善の選択を考え、グループ内で「自分の考え」を話し合おう
- <目的> 「自分の考え」について深く考察し、他のメンバーの意見を聞いて再度「自分の考え」を見つめ直す

トロッコ問題→ブレーキのきかないトロッコ。そのまま進めば5人、ハンドルをすれば1人の犠牲者が出る。ハンドルをきる？きらない？

行為の結果から良し悪しを判断するのは功利主義
 見えているもの（出来事、発言、行動）と見えていないもの（背景、原因、価値観）

「見えているもの」=見たいものしか見えていない
 自分や他者の持つ「思い込み」を疑う

多角的思考 = 批判的思考 = 創造的思考 = ケアの思考	場・人・問題を気遣う
他律・自立・相互依存	共同・協同・協働

◆今後の活動では…



自分は～しかできない

自分しか～はできない

難しいからこそ、今やるからこそ、価値がある
 何ができている、何ができいていないのか

自分で考え、チームで考え、変わっていこう(考え方)！変えていこう！（行動）

生徒リーダー会主催 初ワークショップ！

グローバルスクールに向けて① ～会場確認・マンダラ作成～

①前日のリフレクション（担当：小田くん）

これまでの活動について振り返り、
何ができていて何が課題かを明確にする。
学校毎で話し合い、課題解決に向けて約束事を決める。

今回は「拡散」
アイデアを
広げよう！

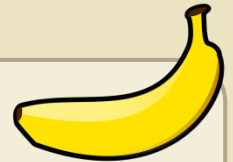
②チームビルディング（担当：柴田さん）

“バナナチャレンジ”

Step1 ひとりでバナナの断面図を描く。

Step2 チームで協力してバナナの断面図を描く。

チームのメンバーがどのような貢献をしてくれたか話し合う。



P機能
(課題達成機能)

M機能
(集団維持機能)

③シャレオから文化センターまでのバーチャルツアー

(担当：富田さん・中尾くん 映像作成：谷くん)

シャレオから県民文化センターにどうやって誘導する？



④マンダラの説明（担当：五反田さん・小林さん・原さん）

マンダラを用いて、今後の活動における目標や
グローバルスクールにおける各エリアの役割等を考える。

グローバルスクールでは「何」を「どんなふう」に伝えますか？



グローバルスクールに向けて②

～イベントを成功させるために～

担当：エリアD

(旗手さん, 星野さん, 西中さん)

グローバルスクールに向けて①では、グローバルスクールのイメージを深めてきました。続いて、この②においては、グローバルスクールでイベントをするときに、大切なことや準備しないとイケないものなどについて考えます。(マンダラで言うところの「活動」の部分)そこで次のようなグループワークを行い、自分たちでイベントを実行するイメージを深めた後、株式会社フジヤの番本さんからイベント成功のためのアドバイスをいただきました。

【Step 1】エリアDによるグループワーク

(テーマ：外国人留学生へのサプライズパーティ)

【Step 2】株式会社フジヤ 番本祐紀さんによる「イベントの極意」

【Step 1】～外国人留学生のサプライズバースデーパーティ～

【設定】

アメリカ人留学生のバースデーパーティを他の留学生とともに行う。なるべく多くの人を集めたい。

- ①何が必要か思いつく限りポストイットに書き出す。
- ②書き出したアイデアをグルーピングする。
- ③発表し、アイデアを共有する。



【各グループから出されたアイデア】

広報、プレゼント、人を集める、対象の好みの調査、外国の雰囲気、招待状、多文化理解のためのゲーム、タイムテーブル、ごちそう、ビデオメッセージ、ケーキ、真心、お金、英語表示の案内、日本文化、飾りつけ、風船

等

【Step 2】～イベントの極意～

株式会社フジヤ広島支店
番本祐紀さん

イベント空間の構造

1. 主役の選定 : 誰に向けたイベントなのか
2. 参加メンバーを集める : 今日のメンバー+海外の学生たち
3. 開催場所、日時の決定 : 2017/シャレオ/県民文化センター
4. テーマを考える : どう楽しんでもらうか
5. 内容、役割の決定 : 年内くらいに

各セッションでの仕事	→ 告知 (いつどこで何を)
準備物の購入	→ いくらかかる、どこで買う、どう飾り付ける、何が必要
お店、会場との連携	→ やっていいこと、だめなこと
細かい当日の決定	→ 1分単位の細かさ、他のメンバーがいま何をしているのかも把握

<当日>

イベントは**準備8割当日2割!**

- 与えられた役割を正確に、予定通り、打ち合わせ通りに遂行
- 会場のと片付け、来た時よりも美しく

★イベント=メッセージ発信の場

自分がお客さんの立場になったときに行ってみたいと思うもの
伝えたい内容は楽しく分かりやすく

デザイン

構成・運営

各担当ごとの準備 (いつどこで誰が何を)

大きなイベントになると

シャレオ: 3方向から来た人を捕まえる、どの角度から見たら何が見えるか、伝えられるか

お手伝いできますよ
(例)
物品・機材のレンタル
図面の作成
看板作成
電気工事

等

大切なこと
伝えたいことは楽しく
分かりやすく
開催日から逆算
役割分担
お客さんの目線で
備品・お金の管理

等

生徒のリフレクションより

初めてリーダーで進めるということをしてみて、とても良い経験になったと思います。番本さんがおっしゃっていたように準備8割、当日2割を強く感じました。準備期間が短く、スケジュールを立てる時に、濃い話し合いが出来なかったのが心残りです。もっと早くから行動を起こす必要があると思うので、次やる時は今回の経験を活かしたいです。1時間のワークショップを考えるだけでも本当に時間がかかります。そう考えると、いつも全体スクールやエリアスクールの準備をしてくださってる方々に更に感謝の気持ちが生まれてきました。そのお礼ができるよう、グローバルスクールや、エリアの活動を絶対に成功させます。

そしてリーダーになってから孤独と辛さを感じていた私にとって、最後の寺田課長のメッセージはとても心に響きました。リーダーは本当にやる事が多いし、大変だけどそれがリーダーであり、リーダーがいるからこそ、プロジェクトは成り立つので、そのことをよく頭に入れて今後の活動も頑張ろうと思いました。



全体スクール2日間お疲れ様でした！今までの私は、自分に任された役割をこなすことができれば良いと思い、それだけで満足してしまっていました。しかし、今の私は、自分で自分の役割を見つけて、主体的な行動をすることが必要だとわかりました。そのために、私は、自分の周りのことを気かけ、何かやっている人がいたら手伝ったり、こんな役割が必要なんじゃないかなと思ったら自分から動こうと思います。そして、そこにいる意味のある人になりたいです。

私が今回の活動で、1番印象に残ったことは、「自分の考えを持つ」、ということです。これまでの私は、他の人の意見を聞くと、自分の意見が幼稚に思えてなかなか発言できていませんでした。しかし、今回の活動で、私は表面的に見えているものだけを自分の意見の根拠としていたけれど、他の人はある問題の背景、原因、価値観もしっかり考えて意見を言っていたから説得力に差が生まれたのだと分かりました。

また、批判的思考も私に欠けていたと気づきました。人の意見を聞いたらすぐに自分の意見を捨て、人の意見に変えてしまうという傾向がある私は、人の意見を疑うこともありませんでした。よく考えると、その人の意見が適切かどうかわからないのに、すぐに自分の意見を変えるなんて、もっとよく考えればよかったですと思いました。

日頃から、色々な視点から考えるようにしていきたいです。



今回の全体スクールでは、3年生の先輩方がいなくなったことで少なくなったなあという印象を受けました。でもだからこそ1年生が積極的なアクションを起こすことが求められると強く感じていました。1日目のカタリバさんのWSでは、自分の人生グラフを書いてどういうときに気分が上がったり下がったりするのか。どんなことを乗り越えて今の自分がいるのかということがわかり、すっきりとした気持ちになりました。2日目の生徒リーダー会のWSが本当に楽しかったです。今まで大人の企画したWSにしか参加したことがなかったので、高校生にもできるんだと思い、チームにプロジェクトへの自信が大きくなりました。また番本さんのイベントの話の中で「準備が8割、本番が2割」とおっしゃられていたのが印象的でした。あと10か月しかないグローバルスクールに向けて万全の準備ができるように、全力でチームに貢献していきたいです。自分がした約束事は必ず守ります。

これまでは、このスクールでの活動を進めていくために大事なものはこのスクールで何をやったか(特に議論のときにどれだけ発言したか、どれだけチームに貢献したか)だけだと思っていました。しかし、今回の全体スクールで、周囲に信頼してもらい自分たちのやりたいことを実現するためには日常生活や活動の中の細かなことを誠実にこなしていくことこそもっとも大事なことになるだろうと気づかされました。このリフレクションもそうですが、「やるべきこと」を最優先にする姿勢を心がけたいと思います。



第5回全体スクールを終えて、私が一番印象に残ったのは、カタリバでの先輩方のお話です。今まで短所を治さなきゃと突っ走ってばかりでしたがお話を聞いて、人間なんだから短所があるのは当たり前でそういう自分とゆっくり向き合って生きていけばいいと思う事が出来ました。

また、人生グラフで自分について深く考えそれを他の人に話す事でまた違う視点から人生について見つめ直す事が出来ました。

そして、先輩方のワークショップでは、今までよく分からなかったグローバルスクールについて具体的に考える事が出来ました。

今回の全体スクールではこれからの人生に必要で大切な経験をする事が出来ました。また、一步成長する事が出来たと思います。これからもたくさんの事を勉強、経験して成長していきたいです。



2015-2017
**Hiroshima
Innovative School**
supported by OECD